

# 続縄文文化における 物質文化転移の構造

Structures of Transferring Material Cultural Attributes  
on Intercultural Contacts in Epi-Jomon Culture

鈴木 信

SUZUKI Makoto

はじめに

- ①属性転移から見た文化接触
- ②異質・同質接触としての物資交換
- ③文化接触と物資交換の関係

## [論文要旨]

続縄文文化の遺構・遺物には、「変異性が強く・現地性が弱く・転移は容易・伝達する際に欠落しにくい」という表出的属性、「変異性が弱く・現地性が強く・転移は容易でなく・伝達する際に欠落しやすい」という内在的属性、それらの中間的属性が備わる。また、属性における不変性・現地性の強弱は「遺構の内在的属性 $\geq$ 遺物の内在的属性 $>$ 遺構の表出的属性 $>$ 遺物の表出的属性」である。そして、内在的属性の転移は親密な接触によって伝わり、表出的属性の転移は疎遠な接触においても成立する。そのため、内在的属性の転移は型式変化の「大変」といえ、表出的属性の転移は型式変化の「小変」といえる。

遺構・遺物の型式変化とは時空系における属性転移であり、空間分布の差異として第一～五の類型で現れる。そして、属性はコト・モノ・ヒトの授受に付帯して転移し、転移先において文化同化・文化異化・文化交代を起こす。

物質交換は文化接触の一種であり、異質接触（渡海交易）においては「もの」を動かすために「かかわり」があり、社会的関係を緊密にすることで物理的距離を克服する（「ソト」関係の「ウチ」化）。同質接触（城内交易）においては「かかわり」の結果として「もの」が動き、基底には社会的距離が恒常的に縮んだ関係（「ウチ」の関係）において行われた。

渡海交易と城内交易と生業の関係は弥生後期に東北地方に起こった利器の鉄器化が誘因となり、その後、鉄器の流通量が増加することで、城内交易は交換財の調節機能の強化が求められ、生業は交易原資のための毛皮猟とそれを支える生業の二重構造を生み出す。渡海交易Ⅱa段階に渡海交易・城内交易・生業が直結して文化異化がおこる。渡海交易Ⅱb～Ⅳ段階には鉄器・鋼の需要が恒常的となり文化異化が継続する。Ⅳ段階には文化異化が収束し、交易仲介の役割を失った東北在住の北海道系統縄文人が故地に帰ることで新たに東北地方から北海道への属性転移が生じる（擦文文化の成立）。

【キーワード】表出的属性、内在的属性、中間的属性、渡海交易、城内交易、文化同化、文化異化、文化交代